



世界中の医療関係者や技術研究者が次々と相談や視察に訪れるのが長野市の「株式会社アールエフ」。C・C・D（電荷

結合素子）カメラと無線とを組み合わせた製品を武器に、驚異的スピードで躍進してきた超優良企業。そのパワーの源は、社長の丸山氏。小学校低学年の時に真空管ラジオを作り、工業高専時代に真空管式白黒テレビを生産・販売し、大学時代にはテレビ修理業をやったというエンジニア。

世界に進出するきっかけとなったワイヤレス口腔（こうくう）内カメラは、全米の歯科医院で八五パーセントものシェアを獲得するまでに。世界初のバッテリーレスカプセル内視鏡も話題となった。胃カメラ検査と聞けば、誰もが「あの苦しい検査か」と思うだろう。飲み込めば、食道、胃、小腸、大腸を通しながら消化器管内をくまなく撮影できるようにカプセル

「長野を先端医療機器の供給基地に」



株式会社アールエフ
代表取締役社長
丸山次郎さん

ル型にした。

将来の人材育成と先端医療機器の研究開発を目的に大学院大学を設立する構想を持つ。二〇〇九年度末の開校を目指し、文部科学省への設置認可申請を準備中。電子工学を習得した大卒者を対象にした三年制の博士課程。授業料は全額無料（月二十万円程度の生活補助費も支給）。製品化から企業経営までを学んでもらう。「人々を幸せにする技術者、起業家を一人でも増やしたい」。優秀な起業家が増えれば、長野はいずれ、シリコンバレーならぬメデイテックバレーになる。「長野を先端医療機器の供給基地にしたい」と夢は広がる。

生まれてきた赤ちゃんの体内に異常がないかどうかチェックする内視鏡を作るのも夢。「小さな命を救いたい」と直径五ミリ程度の超小型カプセル開発も思案中。技術屋としての使命感吐露した。

資本金九億一千万円、年間売り上げ五十三億円（前年度比六億円増）、従業員百六十五人。年々、急成長しているベンチャー企業。社長の口癖は「目の前のことを目いっぱいやる。そうすれば明日が見えてくる」。経営方針でもある。

まるやま・しろう

一九七二年東海大学工学部卒業。富士通研究所に入社したが、起業家を志し退職。東南アジアを拠点に技術コンサルタントとして活躍。九三年アールエフシステム研究所創業。九七年歯科用のワイヤレス口腔内カメラを開発し脚光を浴びた。九八年株式会社アールエフ設立。二〇〇一年カプセル内視鏡、〇五年には、さらに改良を加えたカプセル内視鏡を発表した。著書は「プロジェクト・ノリカ」超小型カプセル内視鏡「開発物語」。関連書籍に「アールエフの知恵」がある。一九四七年十月、長野県上田市生まれ。六十歳。